

科目名	副題	科目概要
言語情報学講義01	言語記述方法論	本講義では、コーパスを日英語研究においてどのように活用するかを考える。コーパスは、人間の情報処理能力では事実上、行い得ないような種類の言語観察を可能にしたという意味で、言語記述に極めて重要な意味を与えている。授業では、まずコーパスとは何かを定義した上で、コーパスが言語記述においてどのように活用されてきたのかを講じ、更にコーパス利用の意義と背後にある言語(学)観についても考える。その上で、テキストエディタなどの汎用的ソフトを用いてテキスト処理の実習を行い、コーパス利用の厳密な方法を講じる。この科目を通して、日英語研究にコーパスを適切に活用することができるようになる。
言語情報学講義02	意味論・語用論	主として意味論・語用論における主要な先行研究を批判的に検討することを通して、当該分野の諸問題を考察する。具体的には、日本語と英語、さらには、受講生の母語(母方言)の言語現象を観察し、意味論・語用論的観点からの考察を試みる。この科目を通して、言語学、特に意味論・語用論の分野での議論・論証の方法、例の出し方など研究方法自体にも十分注意を払い、受講生自身の研究テーマを深めることができるようになる。
言語情報学講義03	形態論・統語論	主として形態論・統語論における主要な先行研究を批判的に検討することを通して、当該分野の諸問題を考察する。具体的には、日本語と英語の諸文法現象を詳細に検討することになるが、常に日英対照的な視点も重視し、また言語の普遍的特徴にも目を向ける。同時に、言語学における議論・論証の方法、例の出し方など研究方法自体にも十分注意を払うので、先行研究が扱っていない諸現象を自ら論ずる際の基礎的訓練に資する内容である。この科目を通して、形態論・統語論の分野での研究方法の基礎を身につけ、受講生自身の研究テーマを深めることができるようになる。
言語情報学講義04	英語語法文法研究	英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われるものを紹介し合い、それを全員で検討する。この科目を通して、英語の語法文法に関する理解を深め、同時に先行文献を批判的に検討することができるようになる。
言語情報学講義05	対照表現研究	言語表現の研究をする際には、まずもってその言語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。本授業では、主として英語と日本語を対象にして、語彙・語法・文法・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から表現に関する理解を深める。この科目を通して、個別言語の枠内にとどめずに、対照言語学的な視点を重視し、一言語を見ていたのでは捉えにくい特徴を発見することができるようになる。
言語情報学講義06	バイリンガリズム	本講義は、最初にバイリンガリズムの基本(定義・認知的発達・二言語同時習得・リテラシー等)を扱う。次に、学際的視野であるバイリンガリズム研究を複数のアプローチで探る。メンタルレキシコンや第二言語習得・保持・喪失を心理言語的に、コードスイッチ現象を言語学的・社会言語学的に、二言語の脳内ネットワークを神経心理言語学的に探る。この科目を通して、バイリンガリズムの基礎的知識と研究手法を身につけことができる。
言語情報学講義07	バイリンガル言語習得と脳科学	本講義では、近年目覚ましい進展を遂げたブレインイメージング手法による脳内の言語処理メカニズム解明研究を扱う。母語や第二言語・外国語処理時の脳賦活データがほぼリアルタイムに可視化できる状態で収集できるが、必ずしも伝統的な(心理)言語学的手法で収集されたデータと符合しない。この齟齬に関して、(応用)言語学の観点から論議できるだけの脳内言語処理に関する基礎的知識を講義する。更に機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いて実際にデータ収集を行い、基本的な分析手法も経験する。この科目を通して、バイリンガル言語習得研究の基礎的知識と研究手法としての脳イメージング機器の効果的使用法を身につけることができる。
言語情報学講義08	言語情報学の諸問題	本講義は言語情報学の通常カリキュラムを補強することを目的とし、必要に応じて発展的・特定のテーマを扱う。科目内容はシラバスに記載する。

科目名	副題	科目概要
言語情報学演習01	英語語法文法分析演習	本演習では、英語の語法文法の実証的分析を目的とし、どのような「正規表現」を用いれば分析対象とする表現の類例をコーパスから正確に抽出できるかを個別具体的に検討し、受講生自身による分析演習を行う。この科目を通して、英語の語法文法研究の実証的研究の基礎を身につけることができる。
言語情報学演習02	コーパスによる言語分析演習(日・英)	本演習では、日英語を対象にして、語彙、文法、表現の観点から問題となるような現象を取り上げ、コーパス利用の前提となる電子データ化する際の精密な記述を行う演習を行う。更に、記述的考察から得られる言語理論の意味合いに関しても考える。(1)言語情報学講義02(言語記述方法論)の内容を前提とし、UNIXマシン上に保存されている日英語テキストの処理方法を講じつつ、(2)受講生各自にはこれまでの研究では十分に記述されてきていない言語現象を発掘することを求める。この科目を通して、日本語あるいは英語の分析能力を醸成することができる。
言語情報学演習03	Perlプログラミング	本演習では、膨大な電子化された文書等のデータから必要な情報を取り出すためにプログラムによる基礎的なデータ処理を学ぶ。最低限の電子データ(特に文書データ)処理を自力で行うための実践的な技量の習得を目的とする。Perlというコンピュータのプログラム言語を用いて基礎的なプログラミングの演習を行いつつ、プログラミングの考え方や言語処理への応用の基本的知識を習得する。Perlは特に文字列処理や言語処理に向けた言語の一つとして広く用いられている。この科目を通して、プログラミング言語の基礎として、ループ、条件判断、配列、連想記憶配列、文字列処理の応用としての正規表現、置換などを習得することができる。
言語コミュニケーション学講義01	社会言語学	この講義は、社会言語学の主要なテーマについて論じ、受講者が近代言語学のなかで社会言語学のもつ意義を理解するとともに、ことばと社会の関係について主体的に考える基盤を作ることを目的とする。具体的な内容としては、方言や世代/性別/階層などの社会的要因による様々な言語変異(バリエーション)、コードスイッチングやスピーチ・アコモデーション、ポライトネス・ストラテジーなど言語使用に関するもの、そして、言語計画と言語政策などの諸問題について講義する。この科目を通して、社会言語学的研究の基礎的知識とその具体的な方法論について身につけることができる。
言語コミュニケーション学講義02	多言語社会論	多言語使用地域における言語接触と文化変容、バイリンガリズムとコードスイッチング、言語消滅と危機言語などの諸問題を扱う。具体的には、米国における英語公用語運動、公民権運動と言語、南米における日本語、移民言語としての日本語、継承語としての言語、日本国内における地域語、日本語と少数言語、言語政策などを取り上げる。この科目を通して、多言語社会における諸問題とその研究の動向を知ることができる。
言語コミュニケーション学講義03	コミュニケーション論	異文化コミュニケーションの一般的な定義と概念、プロセスとそれに伴う困難点、そして異文化コミュニケーション活動を展開する際に必要とされる基本的な考え方を講義する。特に、英語および日本語使用社会における異文化接触と異文化適応、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、高コンテキスト文化などの諸問題を扱う。この科目を通して、人種、社会的/経済的階級、ジェンダー、パワー、ソリダリティーなどについて理解を深め、より効果的なコミュニケーションの確立、またその教育方法などを探究することができる。
言語コミュニケーション学講義04	言語コミュニケーション学の諸問題	本講義は言語コミュニケーション学の発展的・特定のテーマを扱う。科目内容はシラバスに記載する。
言語コミュニケーション学演習01	言語調査法演習	現代の言語使用の実態をデータとして収集、分析、解釈する場合の方法論を講義と演習/実習により習得する。収集したデータを分析するのに必要な言語学的知識は前提とする。具体的には、自然談話の収集と調査票調査の違い、自然談話を収集する手法、調査目的を絞った談話データの収集方法、書き起こすツール、調査の目的にあった話者の探し方などを学ぶ。この科目を通して、言語調査の方法論の基礎を身につけることができる。